

『児童生徒の健やかな成長を目指して』

北斗市学力等向上プロジェクトの活動

今、学校教育には、子どもたちがさまざまな変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、さまざまな情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることが求められています。

北斗市では、児童生徒が急激に変化する社会で活躍できるように北斗市内全小中学校と北斗市教育委員会が「チーム学校」「オール北斗」として連携・協働しながら教育の充実を図っています。その中に市長会長・教頭会の担当者で組織されている北斗市学力等向上プロジェクトがあります。そこでは、市学力等向上プランの作成・推進、学力等向上研修会の開催、先進校への視察の企画・運営などをしています。また、学力等向上プロジェクト通信を随時発行し、市内小中学校の教職員への情報提供や共通理解を図る取組を行っています。

6月29日(木)には、北斗市総合文化センターで、第1期研修会を開催し、各校の学力向上を担当する教諭に参加いただき、研鑽を深めました。研修会では、渡島教育局義務教育指導班主査・松本了祐様に「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学習過程の改善」と題し、授業改善についてご講話いただきました。講話では、①令和の日本型教育のゴールを目指す中で、今、どの段階につまずきがあるのかを学校全体

で把握し、改善を図ること。②社会の変化に伴い、授業スタイルが変化するのは必然であり、一斉授業自体が古いということを経験者が自覚すること。③授業の中に自己決定の場を意図的に与え、ペーシングを子どもに委ねながら教師がその学びをコーディネートする感覚が必要なこと等、たくさんのご示唆をいただき、早速、各校の教職員へ還元し、実践するようしました。

また、学校規模ごとにグループに分かれ、各校の授業改善に向けた課題と解決策について話し合うグループ協議を行いました。各校で授業改善を進めるにあたり「子どもの興味・関心に応じた授業づくりの難しさ」「課題解決に向けた手立てへの準備の大変さ」等の課題を共有し、互いに意見を出し合いながら解決策を話し合いました。その中で、大規模校になるほど「個別最適な学び」に難しさを感じ、小規模校になるほど「協働的な学び」に工夫が必要になる傾向にあることが明らかとなりました。

12月には第2期研修会を開催し、ICTを効果的に活用した授業づくりについて研鑽を深めていきます。



松本氏による講話



グループ協議の様子

(北斗市教頭会 萩野小学校 教頭 長島 幹伸)

気持ちの上手な伝え方

市渡小学校では、3年生を対象に「気持ちの上手な伝え方」という学習をしています。

子どもだけでなく、大人にとっても参考になる内容ですので紹介します。

アイメッセージとユーメッセージ

アメリカの心理学者トマス・ゴードンが提唱したコミュニケーション技法です。誰かに何かを伝えるためには、

- ① アイ(私)メッセージ
- ② ユー(あなた)メッセージ

という2つの伝え方があります。

同じ内容でも、誰を主語にして話すかによって、受け取る印象が変わります。

ユー(あなた)メッセージは、攻撃的なメッセージだと受け止められることがあります。アイ(私)メッセージは、相手が自分の行動を振り返り、心を動かされることが多いといわれています。

I メッセージ



You メッセージ



例えば、このように言い換えられます。

ユー(あなた)メッセージ	アイ(私)メッセージ
どうして片付けないの？	片付けてほしいな。
どうしてそんな言い方をするの？	そういわれると悲しいな。
どうしてそんな場所に行くの？	その場所に行くのは心配だよ。

アイ(私)メッセージの方が素直になれそうな気がしませんか？

言いづらいことを

いうときも、アイ(私)メッセージの方が伝わりやすいとされています。

お互いの気持ちを大切にするためにも、日頃からアイ(私)メッセージで話せるといいですね。



(北斗市学校保健会 市渡小学校養護教諭 吉田 美奈子)